

原爆「残り火」に平和誓う



宣言もしくそくろう 小葉双

甲斐・双葉東小(中千博校長)は21日、広島に投下された原爆の残り火をろうそくにともし、平和について考える集会を開いた。児童たちは「平和宣言」を読み上げ、原爆の火を見つめながら平和への誓いを新たにしていた。

同校では7月から、6年生が戦争と平和に関する学習を進めていて、集会はその一環。同校の増坪広夫教諭が、原爆の残り火の存在を知らせる活動に取り組む市民団体「キャンドルナイ

トワンピース実行委員会」のメンバーと知り合いだったことから実現した。原爆の火は原爆投下後の広島で採取されたもので、福岡県八女市でもとされ続けている。

集会には6年生約100人が参加した。児童は床に置かれた約70個のキャンドルに火を付けて「平和」の文字を浮かび上がらせた。一人一人も火のともったろうそくを手にし、「私たちの心にともった火を消すことな

く守り続け、思いを広げると平和宣言した。原爆や戦時中の暮らしに関する発表もあった。

桜井啓裕君(12)は「戦争や核兵器のない、人々が平和に過ごせる世界になってほしい」と話していた。

原爆の残り火をキャンドルにともし「平和」の文字をつくった集会＝甲斐・双葉東小